

平成28年度 行事 総括

行事回数：60回(60)

参加者：123名(106)

延参加者：510名(583)

延参加日数：700日(824)

(括弧内は昨年度)

昨年に比べて行事回数は同回数であったが、延参加者12.5%、延参加日数15.0%と共に減少し、一行事あたりの参加者は、9.7人から8.5人と1.2人少なくなりました。

この一年を振り返ると十二項目の特記事項がありましたので、列挙致します。

一、新春初山行 十津川村・アンショウ山(Ⅲ△1099.4m)

実施日：1月2日、十津川村武蔵と大野・片川集落との生活道の跡が残る石畳・道標のある道を辿り焼峰峠へ。雑木尾根のアップダウンを繰返し890mのピーク(56号鉄塔)へ。ここからは、護摩壇山系から玉置山方面の山並みが一望された。

山頂は植林で展望がないが、新春らしく国旗を三角点に立て万歳三唱！新雪があるとかかなりきつい尾根道となるだろう。

890mのピーク下鞍部に戻り、新春恒例の焚火を囲んで楽しい一時を過ごし、幸先の良い年初行事となった。

二、第57回十二支会例会「猿ヶ嶽IV△429.6m」協賛行事

実施日：1月9日～11日、前夜祭の山口市・湯田温泉「常盤」に53名が集い、当ぐるーぷから会員7名+ビジター10名が参加して親睦を深めた。玉岡さん親子は、前日に出発され前山として「江嶺山」に登り前夜祭に参加。

10日：猿ヶ岳山頂には、十二支会玉岡元会長も登頂され、

今西流の万歳三唱！慶祝行事が行われ、風もなく暖かった。

下山後急遽、新宮組は翌日の後山として、宮島・弥山へ登る事になり、山口市内を観光し、岩国市錦帯橋傍のホテルに宿泊。

11日：ロープウェー組と椎木さん案内で大元コースから弥山(535m)に登頂。下山後「牡蠣小屋」で食事をして帰新。

三、深仙宿小屋の改修(増床・宿内塗装・ソーラー発電・窓設置)

と釈迦ヶ岳周辺登山道の笹刈り道普請

増床工事(3月21日・4月2日)、宿内塗装(4月10日)、ソーラー発電装置設置(4月16日)、窓設置(5月1日)により、暗い避難小屋のイメージが一新し、宿泊人数増と明るい避難小屋に改修された。この作業には、主に梶野・児嶋・松本吉殖氏が個々に携わられました。

釈迦ヶ岳周辺登山道の笹刈りは、会友・青木氏が大半個人山行として、自発的に笹刈りを実施して下さったもので賞賛に値します。

四、奈良森林管理事務所と「多様な活動の森」協定書更新・認可

3月30日に協定書が再更新され、平成32年度迄認可された。

五、モノレールの設置(行仙宿補給路登山口～浦向道分岐下迄)

新宮信用金庫井上常務様から50万円ずつ拠出して、モノレール設置を提起され、(株)カマハラテック谷社長に相談された。

現地を見て「付けたる」と即決して頂き、山主の上平一郎前下北山村村長の快諾を得て、補給路登山口から浦向道分岐下迄、標高差130m・長さ260mが(株)カマハラテックにより4月上旬に架設、高齢化の会友にとって荷上げが本当に楽になる。

(株)カマハラテック谷社長は、山彦の活動を理解下さり、玉岡

さん親子が行仙宿巡回を終え、肩と腰にロープを結わえて下山される姿に感動され、高額な「モノレール一式」寄贈、又「しんきん世界遺産応援募金会」からモノレール駐機小屋とメンテナンス費用に50万寄付して頂きました。本当に有難く衷心より御礼申し上げます。

モノレール終点地崩落防止(5月5日)、駐機小屋組立工事(5月1日・15日・22日・6月4日)には、延29名の作業者により完工した。

六、行仙宿の屋根トタン塗装(ペンキ塗替え)

会友・三井さん勤務の(株)齊藤鐵工所では、余ったペンキを廃棄するとの事から、廃棄ペンキを貰えないか打診したところ、下検分(4月8〜9日)に来られて、下塗り(エポキシ樹脂塗料)と上塗り(ポリウレタン樹脂塗料)の二度塗りを推奨して下さい。(株)齊藤鐵工所の社員教育の一環として、塗料無償提供の上4名が上塗り作業(6月11〜12日)をして下さいました。玄関屋根などは、下塗り塗料が足りず、塗料を追加して頂き下塗り(7月31日)を終えた。

前回の下塗り塗装の塗料不足は、攪拌不足に因るとの事から攪拌機を持参され、上塗り塗装(11月5〜6日)を実施し塗り終えた。行仙宿の屋根トタンは、下塗り・上塗りの二度塗りした事により、陽光・風雨により耐えられるものと思われる。

七、笠捨山捲き道(旧通信道)の改修・補修

平成23年の台風12号の紀伊半島豪雨により、笠捨山の捲き道(旧通信道・鉄塔巡視路)の栈木が崩落し放置されていた。

昨秋の創立40周年祝賀会の席上、電源開発(株)橋本流通事業所

長さんに改修資材として、バイブ杭の提供を要請したところ、「くい丸;60本」を行仙宿に荷揚げして下さいました。

後世に残すべき歴史と由緒ある旧道であり、5月連休中(4月30〜5月8日)に7回延27名にて改修・補修を完了した。支谷を横切る地点は、資材不作で完全に補修が出来なかったが、歩き易くなった。

八、四国「石鎚山・飯野山(讚岐富士)」登頂遠征

実施日;10月1日〜3日;昨年の北海道遠征に続くシリーズとして企画。頂上直下で転落事故死を目撃された方もあったが、25名全員が無事に石鎚山・石鎚神社(弥山:1974m)に登拝した。翌日(3日)、飯野山(讚岐富士:III△421.9m)に登頂した。

九、行仙宿で医療法人やまびこ会の道普請と懇親会

実施日;10月15日〜16日、1年半ぶりに腎・循環器もはらくりニック関係者14名が道普請に参加して下さいました。この内、3名は葛城28宿の行者さん(葛峰進龍山証嚴坊)で初参加された。

東側犬走りコンクリート舗装、補給路の小屋から第2サコ土砂止め、間伐新材の引上げと薪割り作業の道普請に分れて携わって頂きました。

翌日、台風16号以後の行仙宿・持経宿間の南奥駈道の点検巡視をして頂いたが、支障なしであった。

この行事にビール12箱等の荷上げ及び多額の志納金(10万円)を頂き、感謝と御礼を申し上げます。

十、持経宿の和式トイレを腰掛便座据置

実施日;11月20日、和式トイレを簡易腰掛便座に改装した。

和式トイレ排出口に合わせて据置くとドアとの間隔が狭く窮屈な姿勢になり、12月18日、前へ10cm拡張して解消した。

十一、「新宮山彦ぐるーぶ創立40年の活動の歩み」記録誌の発刊

行事報告書は、玉岡さんが手書き清書して記録が保管されて来ましたが、活動に携わられた先輩諸兄の方々が、どの様な作業に参加されたのかは、現状では把握しづらかったです。又、コピーで大半が保存されていて、経年劣化し判読出来なくなる事から、後世に残すには電子記録媒体として記録を保管する必要があります。「行事回数・実施日・行事名・参加者名」一覧表の記録誌を編纂し、10月20日に発刊・発送した。

十二、公益財団法人・社会貢献支援財団の社会貢献者表彰受賞と

表彰式典報告会開催

この度、和歌山県から推薦の選考書類を提出して頂き、8月9日に社会貢献支援財団・天城一専務理事が審査下見に行仙宿に来宿・来新され、9月5日付けで受賞決定の通知がありました。

社会貢献支援財団は、11月4日に第47回の「社会貢献の功績51件」の受賞が発表されました。

表彰式典が帝国ホテル東京・孔雀の間で執り行われ、11月27日18時から約150名が参席し受賞者懇談会が催されました。表彰式は28日10時半から開式。約600名が参席し、内閣府・総務省・文部科学省・国土交通省等の後援の下、内閣総理大臣夫人・安倍昭恵会長から賞状、副賞の日本財団賞50万円(当日、口座振込)を授与された。祝賀会は12時40分から日本財団の笹川陽平会長の祝辞と乾杯のご発声で開宴した。

安倍昭恵会長と記念撮影させて頂くと共に「大山の頂上を保護

する会」と名刺交換し懇親を深める事が出来ました。

この受賞は、昭和59年から玉岡憲明前世話人代表の下に、先輩諸兄が汗水を流して来られた、延一万八千人の奉仕活動に携わられた方々の積重ねが、高く評価され認められたものです。

この受賞により、これまで以上に広く認知、紹介されることになりました。

この受賞を励みに、会設立当初の会の趣旨と奉仕の精神を忘れずに、今後も当ぐるーぶ活動の継承・継続に精一杯努力する所存です。皆様方には、引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。

表彰式典の報告会は(12月3日)、新宮市・阿須賀会館で52名が参集し、受賞の喜びを分かち合うと共に旧知の会友と語らい談笑し、盛大成功裡に終えることが出来ました。

最後に、28年度の行事遂行に会友の皆さんからご支援ご協力を賜り感謝とお礼を申し上げます。

尚、昨年同様、会友の高齢化により一部会友に偏りがちで、次世代に引継ぐための新会友の勧奨に努める必要があります。皆様も入会勧奨をお願い致します。

29年度には、来春の行仙宿・行者堂の役行者尊像修復後の開眼供養並びに釈迦ヶ岳く楊枝ノ森迄の倒伏石柱道標復元などの課題事項があり、鳥海山(秋田・山形県)の登頂遠征も企画予定しています。

皆様方には、行事への参加にご理解を頂き、引き続きご支援ご協力をお願いする次第です。

(文責 川島)